

バックアップ

Trac はバックエンドにデータベースを使用しているため、安全に [プロジェクトの Environment](#) のバックアップを作成するためには、何らかの配慮が必要になります。 [trac-admin](#) に用意されている `hotcopy` コマンドを使用するとバックアップの作成を簡単に行なう事ができます。

Note: Trac では、Trac と Subversion 両方を管理するときに分かりやすいよう、[Subversion](#) にあわせて、`hotcopy` という用語にしました。

バックアップの作成

稼働中の [TracEnvironment](#) をバックアップするためには、以下のコマンドを実行してください:

```
$ trac-admin /path/to/projenv hotcopy /path/to/backupdir
```

[trac-admin](#) はバックアップを行っている間、データベースをロックします。

バックアップされたディレクトリは、`tar` や `dump/restore` のような通常のファイルベースのバックアップツールで、安全に取り扱うことができます。

Note: `hotcopy` コマンドはバックアップ先ディレクトリが存在していた場合、上書きを行うことが出来ないため、次のエラーで失敗します: `Command failed: [Errno 17] File exists:` この問題は [本家チケット 3198](#) で議論されています。(訳注: 上書きを行わない動作のまま変更されない方向で議論が進んでいます。同チケットで運用回避の手順が示されています。)

バックアップからの復元

バックアップは、SQLite データベースを含む [プロジェクトの Environment](#) ディレクトリ配下の全体のスナップショットです。

[Environment](#) をバックアップから復元する場合、Trac を起動しているプロセス (Web サーバ、または [tracd](#)) を停止してから、コンテンツをバックアップ (path/to/backupdir) から [プロジェクトの Environment](#) ディレクトリに書き戻して、サービスを再起動します。

Note: バックエンドのデータベースとして SQLite

を使用しない環境の自動バックアップは現時点ではサポートされていません。回避策として、データベースシステムがどんなメカニズムを提供しているとしても

See also: [TracAdmin](#), [TracEnvironment](#), [TracGuide](#), [TracMigrate](#)